

児童青少年センター(ゆう杉並) 施設概要

名称	杉並区立児童青少年センター (愛称)ゆう杉並 (併設 男女平等推進センター・ゲートボール場)
根拠法令 及び種別	児童福祉法第40条「児童厚生施設」(児童館) 「大型児童センター」
開設年月日	平成9年(1997年)9月1日 平成6年(1994年) 有識者による建設協議会・職員の建設委員会発足 平成6年(1994年) 中・高校生建設委員会 43名が発足・半年間検討
建物	(構造)鉄筋、地上2階+地下1階 (敷地面積) 5,356.02 m ² (延床面積) 2,895.71 m ² うち児童館部分2,361.08 m ² (設計)建築家の六角鬼丈氏による。開設 30年までレイアウト変更は不可
休館日	年末年始(12月28日～1月4日)及び第2・第4月曜日
運営時間	火曜日～土曜日 午前9時から午後9時まで 日曜日・祝日等 午前9時から午後5時まで 第1・3・5月曜日 午前9時から午後5時まで(親子の当日利用のみ)
利用の形態 及び利用時間等	<自由利用時間> 小学生:午後5時まで 中・高校生:午後7時まで 高校生学習利用:午後9時まで(ゆうカード必須) <団体による占用利用> ・要件は3名以上の団体で、区内在住・在学の中高生が過半数占めること ・団体の利用時間は「集会室・スタジオ1・2、ミキシングルーム」は全日、 「ゆうホール・スタジオ3」は9:00～13:00、19:00～21:00、「体育室・ゆうカフェ」は19:00～21:00、「鑑賞コーナー」は9:00～19:00
職員 45名	事業係(18名)→ゆう杉並の運営 1日3ローテーション勤務 常勤職員(児童指導) 11名 嘱託員(月16日勤務) 7名 *管理部門 ・課長 3名 ・管理係 17名(うち会計年度任用職員2名) ・児童館運営係 8名(うち再任用1名、会計年度任用職員1名) ・青少年係 9名(うち会計年度任用職員4名)
愛称の由来	愛称「ゆう杉並」 開設に当たって、区民に公募した中から、とくに中・高校生から多く寄せられた「ゆう」を採用。友情、融和、遊び、優しさ等の意味が込められている。

児童青少年センター事業 実施状況

1 施設の利用状況

(1)利用者数(2019年4月1日～2020年3月31日)―通常運営日数 301日(サンカード利用日を除く)

	幼児	小学生	中学生	高校生	大人	合計
年間総数	374人	6762人	10988人	28090人	2682人	48896人
構成比	0.8%	13.8%	22.4%	57.5%	5.5%	100%
1日平均 (昨年)	1.2人 (1.2人)	22.4人 (19.1人)	36.5人 (41.4人)	93.3人 (103人)	8.9人 (10.5人)	162.5人 (175.2人)

(2)団体登録の状況(2020年3月31日現在)

種別	団体数	主な内訳(利用目的)
中・高校生グループ	356	バンド 240 スポーツ 39 吹奏楽 33 ダンス 19 演劇 4 その他 21(応援団、合唱、学習、ヲタ芸、アニメ)

2 中・高校生運営委員会および意見表明の活動(令和元年度) 職員:委員会=50:50

(1)委員会 ①定例会 月1～2回委員全員で懸案事項の検討、各活動の進捗状況等を確認

- 広聴活動 利用者からの意見箱や利用者懇談会等を通じて、利用者の意見を聞き取り、運営に活かす
- 広報活動 ホームページ等を通じて、ゆう杉並をPRする
- 自主企画活動 利用者のニーズを活かしたイベントの企画運営。ゆう杉並の文化祭「アクティブフェスタ」の実施
- 見学・交流 他の自治体が運営する中・高校生の居場所の見学、交流の実施。

(2)利用者懇談会 運営に対する利用者との意見交換会をフロアごとに実施した。(職員もしくは委員会が主催)

3 ゆう杉並の事業概要

(1)さまざまな企画

- ①中・高校生自主企画 バンド・ダンスライブ、TVゲーム大会、国際交流企画等
- ②職員企画・プランナー企画 各種楽器講座、ダンス講座、スポーツの集い、クライミング講座等

(2)オフィシャル活動 ゆう杉並の部活

- ①ボーカル、演劇の2グループ。技術向上と施設外での公演を目標に通年実施。
- ②アニメや鉄道の2グループ。居場所と自己実現を目的に通年実施。

(3)困難を抱えた中高生支援 高校や適応指導教室連携事業、関連機関の情報交換会、啓発事業等。

(4)青年(大学生・OB)による中高生支援

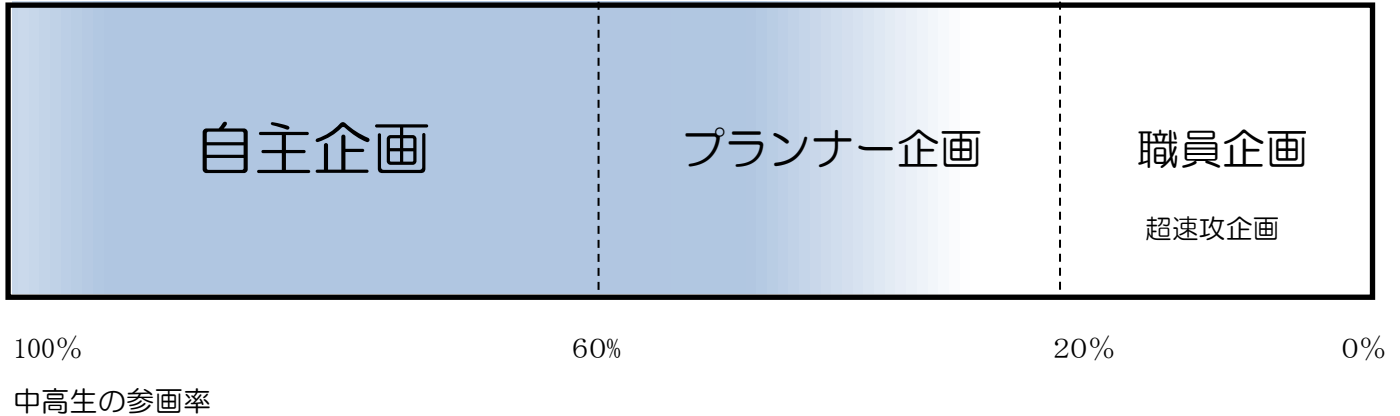
- ①ピアサポート事業 ボランティアが中・高校生の身近な話し相手になる事業(月2回程度)
- ②テクニカルサポート事業 専門的な技術を持ったボランティアが、その特技を活かし中高生を支援する事業

(5)地域との連携

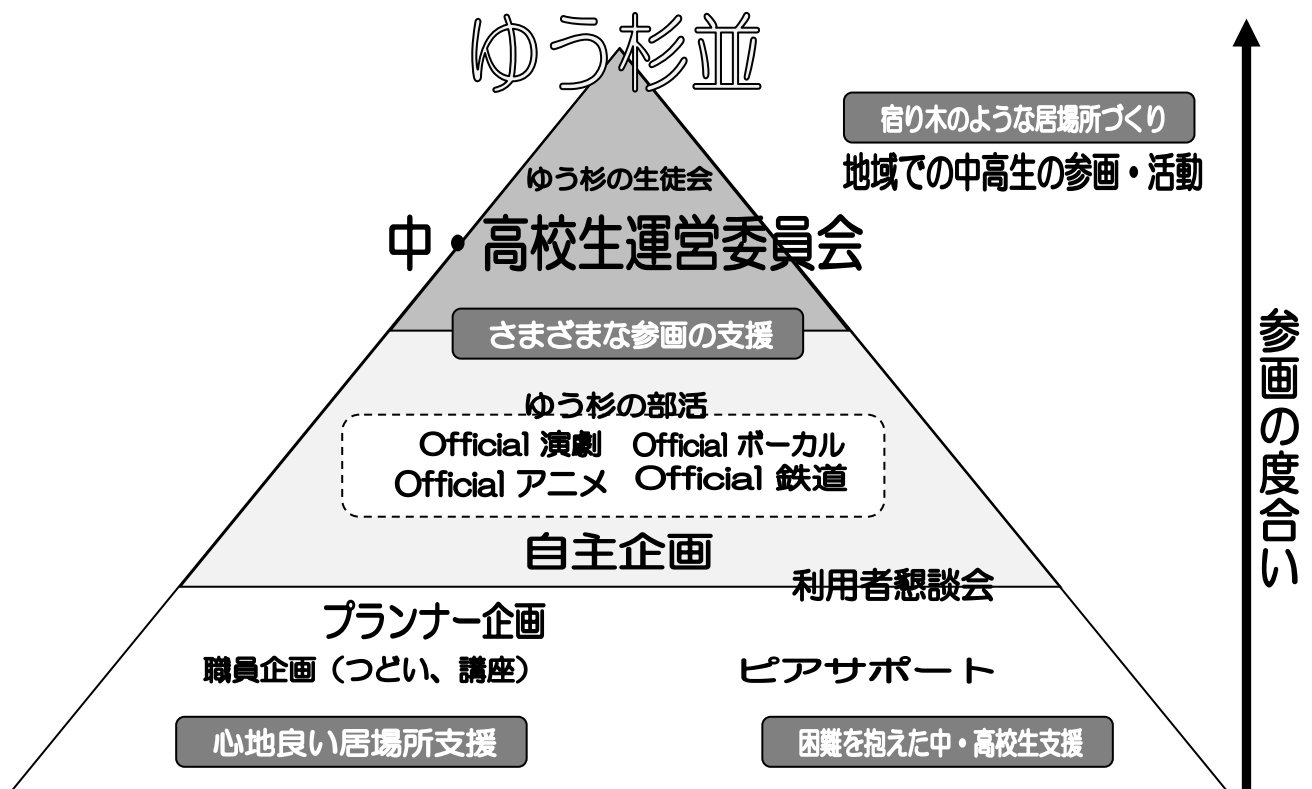
- ①地域への中・高校生派遣 敬老施設等での地域行事に参加、児童館と連携して事業を実施
- ②連携事業 区内外のNPO、団体、企業と連携した事業を実施
- ③首都圏中高生ネットワーク 首都圏の青少年施設同士の情報交換および職員の交換研修の実施

ゆう杉並企画の参画度による分類

- ゆう杉並の企画の大半は自主企画です。
- 職員企画も大半の企画は利用者の意見を取り入れて実施しています。



ゆう杉並の参画のイメージ



- 利用者は大別すると「居場所」、「自主企画」、「運営の参画」のいずれかのステージで利用しています。
- 利用者の過半数は居場所利用。常連になるにつれて自主企画のステージに上がっていきます。
- 職員が意図して、参画度の高いステージに導くのではなく、彼らが望むステージをサポートします。
- 委員会のメンバーは自主企画等でさまざまな経験を踏んできた利用者中心に声かけをします。

ゆう杉並の設立の経緯

1991年 児童福祉センター移転計画浮上

1993年 長期基本計画（平成6～15年）に「総合児童センター」案が載る

1994年 有識者による建設協議会 職員の建設委員会発足

1994年 職員の声かけで「中・高校生建設委員会」が43名の委員で発足

ゆう杉並のコンセプト

1997年 開館時

- ・中高生が主役になれる場所
- ・中高生の意見を活かし、参画できる場所
- ・本物・プロと出会える場所

2007年

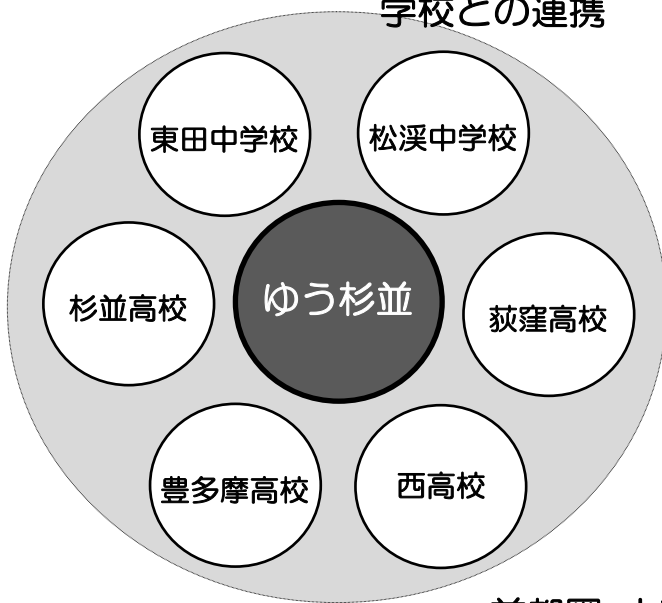
- ・自主企画実現システム
- ・社会体験ハローワーク事業
- ・困難を抱えた中高生支援

2020年

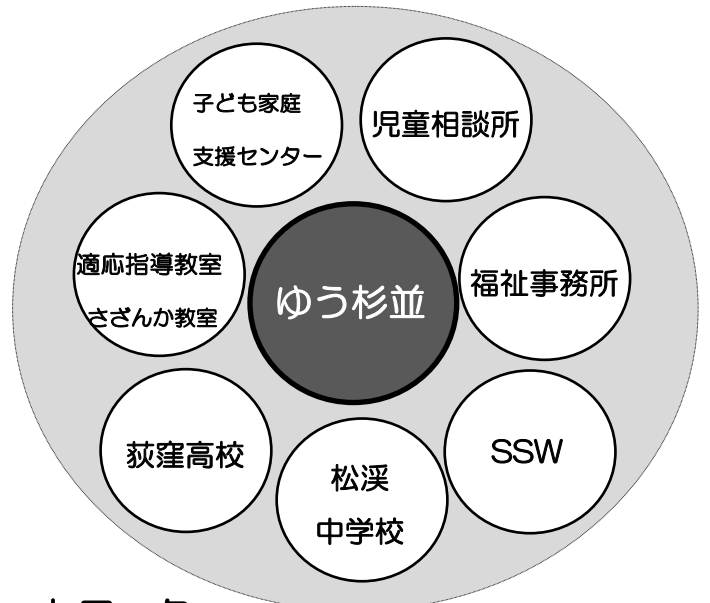
- ・「ようこそ、ゆう杉並へ！」の気持ちで暖かく迎える
- ・ロビーワークの強化
- ・地域連携の推進

ゆう杉並の地域連携

学校との連携



困難児童の支援連携



首都圏 中高生ネットワーク

